

昭和三十一年一月三十日
第一回臨時全々議錄

昭和三十一年一月館山市議会第一回臨時会々議録

一、昭和三十一年二月二十二日午後二時館山市議会第一回臨時会々館山市役所分館会議室に招集する。

一、出席議員数三十五名、その氏名左の如し。

一番 石井 潔

二番 高橋 文治

三番 山本 昇

四番 田中 忠藏

五番 萩生 田七郎

六番 秋山 万次

七番 山口 房治

八番 田村 喜兵衛

九番 田中 保郎

十番 佐久間 篤次郎

二番 伊勢 仙之助

三番 吉田 勇治郎

三番 小沢 恵太郎

四番 磯 辺 周雄

五番 大野 清五郎

五番 鈴木 孝

七番 安西 政治

六番 小沢 太助

九番 小谷 無違

二番 鈴木 市藏

二番 望月 暉作

三番 松本 藤太郎

三番 遠山 ヨネ子

四番 脇田 順一

二五番 石井 平次

六番 金木 久一

二七番 中村 良五

八番 嶋 貫壮作

二九番 小 次 光義

三番 飯田 義男

三番 可世木 芳藏

三番 後藤 ゆき

三四番 黒川 佐太郎

三五番 福岡 保徳

三六番 嶋田 繁

一欠 席議員数一名その代名左の如し

三〇番 山口 康

一 本日の議事日程左の如し

日程才一 報告才一 号

昭和三十一年度二月例月検査報告

日程才二 陳情書

(神戸地区砂鉄採掘反対)

日程才三 臨時出納検査立合議員の互選について

日程第四議案第一号 起債議決の変更について

日程第五議案第二号 固定資産評価審査委員会の不

員の補欠選任について

一、議案第三号より議長より説明のため出席を求められる

者次の通りである

市長 田村利男

助役 小出武男

総務課長 完谷 貴

秘書課長 山谷 潤 昶

税務第一課長 黒瀬 芳雄

商工水産課長 吉田 耕一

厚生課長 羽山 秀雄

並査委員 南 武夫

一本議会の事務局長及び書記は次の通りである

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

同

真田幸男

一、本日の会議の事件は左の如し

報告第一号 昭和三十一年度一月創月検査報告

陳情書 神戸地区砂鉄採掘反対

臨時出納検査立会議員の互選について

議案第一号 起債議決の変更について

議案第二号 固定資産評価審査委員会委員の

補欠選任について

開会 午後 二時十分

議長(石井潔君)本日の出席議員数三十五名これより昭和三十二年

第四回市議会臨時会を開会いたします。

議長(石井潔君)本臨時会の議案説明のため田村市長、小出助役、
完戸総務課長、山谷秘書課長、黒瀬税務第一課長、
羽山厚生課長、吉田商工水産課長、岡臨査委員以上
の出席を求めたので御報告いたします。

議長(石井潔君)会議録署名委員の決定を行います。
お諮り致します。従来の例により議長の指名により決定致
します。に御異議ありませんか。

異議 ないのさ

議長(石井潔君)御異議なくと認めます。よろ

十八番議員小沢太助君、五番議員萩生田七郎君、
以上御両君に決定いたします。

議長(石井潔君)会期の決定を行います。

本臨時会の会期につきまして会議規則の定めるところに
より議会運営協議会の意見を求めるところ、会期一向

と。う。ろ。と。で。あ。り。ま。す。

お諮り致します。会期を一日と定めます。所異議あり
ませんか。

異議なしの事

議長（石井繁君）所異議なしと認めます。よろ。会期は一日と決定
されました。

議長（石井繁君）今日の議事はお手元に配布の日程表により上提
いたします。

日程第一 報告第一号を上程いたします。

書 記 朗 読

報告第一号 昭和三十一年度二月例月検査報告

総査委員（岡武夫君）一般会計の出入におきまして、市税の
収入額は、三千七百三十九万三千三百三十九円でございます。固定資産
税一千三百四十九万七千三百三十九円、電気ガス

税八十八万八千内都市計画税百十四万等の重なるものでござい
ました。

税外寸入は一千五十七万三千三百七十三円でございす。民生保護費
が少かつたようでございす。その他使用料寄附等でございす。その
他特別申上げることゝございせんのでこの表により仰了承願いた
しと思ひます。

二六番(嶋貴壮作君)この今年度の調定額の内現年度分
か幾ら端納金を幾ら、それに対する収入をお知りせ願ひたいと
思ひます。

臨査委員(岡武天君)お答えします。

現年度分でございす。か調定額一億一千四百四十四万
九千四百六十六円これに對して收入七千五百五十一万八千三十九
円、それから端納繰越分でございす。か九百八十二万四百六十四
円、でございす。

議長（石井繁吉）他に御質疑ありませんか。

御質疑ないと認めまして、日程中二の陳情書に移ります。

書 記 朗 読

陳情書（神戸地区砂鉄採掘反対）

三番（飯田義男君）本陳情書の紹介、議員を代表して本陳情書に対する説明とお願いを致します。

精しくは本書にためてある通りであります。

皆様へ、納得と認識を得たいと思っております。

神戸は砂の地帯でありまして、約三百年砂との戦いが続いております。

まず、最近砂鉄が非常に重要な資源となりまして、業者から

砂鉄採掘を本願としておりますので、村当時は村を上げて反対し

て来たのであります。しかし市に移り、業者のなんとかが砂鉄を採

掘しようとしてくるのであります。このように、神戸地区地主

は本問題に反対してゐるのであります。最近反対期成同盟を作り

すて強硬に最後まで反対してゆこうという強固な熱意であります。すでに掘られている南三原は大きな被害であります。業者は右の整備が無責任であります。その点我々は心配してゐるのであります。農業委員会も全員一致反対の決論が出てゐるのであります。本議会におきましても慎重審議本問題を取り上げて十分な処置をお願いしたいと思つてあります。市に合併になりましてからは市長に節をお願いしたいであります。市長(田村利男君)飯田議員の神戸地区の砂鉄問題につきましては去年以来急速に反対陳情が出て来たのであります。私も同道として県及び通産省に反対陳情のお姿をしたわけでございます。かその際県並に国としてはやはり国なら国なりに砂鉄の必要性を説き及ぶべきであります。一か一なり市長としましては神戸地区民の一貫となつて反対してゐる以上通産省にも申上げたのであります。伊藤会長から市長のオにも陳情書が来ております。

二番(伊勢仙之助君)出願者でございますかどういふ会社の出願してゐるか、又場所はどこへんの資本金はどれくらいか、それらについて市の知識を得てありますか知つてゐる範圍に説明願ひたいと思ふ。更に説明の中に県からの通告もあつたやうですが、それを仰覧表願ひたいと思ふ。私は今日始めて聞かふやうな状態であります。その裏につて県から意見を求められたやういふ時には市当局は県なり国から要請があつた時は議會に御相談願ひたいことを付加えます。

二八番(嶋田貞世作君)県から来た、西せ望書を讀上げたときのことと思ふ。

商工水産課長(吉田耕一君)(課長朗読)

これの果から意見を求められたものであります。それについて神戸公民館でよく意見を聞きまして、これは解答してあります。

二番（伊勢仙之助君）南こうとしましてたのは六月二十一日の二回目
の時の説明の経過にはよりえられておりませんので文書
は取寄せるまでありませんか。一面目三面目と変えた方向をもう
て出されたと思えます。それを説明して若くは結構です。
商工水産課長（吉田新一君）六月二十一日の解答の概要を申し上げます。
砂鉄採掘事業は国家的仕事を多分にもちっております。
関係は当市としましては努めてこれの實現を待望して
いるという要旨であります。かゝる地元関係市民の大
部分は祖先伝来の土地に強く愛着をもっております。数
度にわたり説明会等を開きます。たゞすか、賛成の関係
の部族民もあります。反対意見の方多く今迄地元民の賛成
を得てないのであります。大石 寄りはこの事業の重要
性、この仕事に対して理解をもてるようにする。事業に使用す
る水をこれを使用後に灌溉用水に供給して貰えたいといふ

おなりかという考方も持っておりますが事業施行者も用水施設もそうだとすればそうするところを申込れておりまして尚この大石附近はそういう関係で事情が止むを得ないように考えるを持っております。越え民は灌漑用水の関係で反対しているようでござります。灌漑用水の関係は使用後に残ることは土地関係経費が立証されれば解消されること考へます。それを公害として取立て、こうだという点は考へられたいという程度の解答をいたしました。

三番（飯田義男君）その後でそれの向違ひであつたというこゝについて簡単に説明して下さい。

商工水産課長（吉田耕一君）それの向違ひをあらたという事は、いませんが十月一日に先程読上げましたように公害があると提申いたしまして。

三四番（里川佐太郎君）飯田義男の所説明で大体即了解

願えらと思ひますが私から補定的に申上げたいと思ひます。

神産地区は一戸当りの耕作面積は約八反部に過ぎ

ません。又耕作地は砂地である為非常に肥料を用する

又水田においては倍の肥料を用するものであります。その収入に
おきましては神産地区農民はそう申しても失礼です。い

ゆる大部分が零細農家の域を脱し得なかつたのであります。
か全戸がこれに打叩するかという重大問題になつたのであ

ります。が村当局並に農業、肉俵、理事者が中心になりこ

れの打叩策を検討した結果、平砂補の関、總、即ち耕地

面積の拡張を決定したのであります。かこの地区は関東一の

風の吹く地区でその労苦が一朝にして水氾に歸するのであります

して県にお願ひしたところ、幸県当局の御理解、同情により

十四年より五箇年計画で砂防林を造成、平砂補を開闢

しようとする事になり、その案についてゐるのであります。

海岸の砂鉄は極言すれば砂鉄あるが故に終當かなり立つ
取られると砂山と同じになり神戸地区には由々しい問題であり
ましてこれが許可になるとすれば挙げて猛烈なる社会
問題も喚起する、これを思う時あるは市にどれだけ利益
があるかわかりません、あの穏健な神戸農民をどんな思想に
持込むか何としても市当局の筋に歎願しておられるこ
とでも我々これを採託することは理不尽に致着すること
ではないと思います。我々と同じく市民である神戸農民の
方にも是非採託願いたいと思ひます。

商工水産課長（吉田耕一君）只今の第一向でございますが出願の面積
は三万五千二百四アールになっております。

出願者に和田の笹子金谷さん場所、佐野、大石、藤原
布衣、神余の一部他に官有地等につきましては、砂山
局あるいは県の商工係等に南きます、たかその点について

私達に教えることは出来ないという関係から今だ細かつ件に付きましては分りません。それから会社の状態でござい
ますか。資本金がいくらかという点に付きましてはまた調
査ははかり出ておりません。

二番（伊勢仙之助君）市の知っているのは一社のみと了解してい
いますか。

商工水産課長（吉田耕一君）また市内に出願が三件ござります
か。この問題が解決しませんし又、市を経由しませんので分
りません。左に申上げるとは平砂浦の海岸地域が二つ入る
ことと、笹子さんと競願になさることでございませぬ。

西岬の伊戸、坂田、川名、棚崎、これを除く大体西神全
地域も同じ人が各個所に分けて出願しておりますか。面積等は
四画かありませんのではつきりした数字は申し上げられません。

二番（伊勢仙之助君）大体分ります。たしか二画の解答の時地元の

意向が市当局として出たようです。かみ三に解
答の時も見まう、賛成である反対であるという、市当局とし
て誠にう解答文を出してあります。我々議会人として一
線を貫いてやうゆきたいと思ひます。最初に賛成次に反
対とろく不統一なううう問題にはかりでなく、どううう
問題をもにふ場合は協議会なりお諮り願ふ一貫したもて
ゆきたいと思ひます。私はここに希望を申上げておきます。

二三番（松本藤太郎君）神戶地区の砂鉄のことは誠に不勉強で今始
めて知つたやうなわけでございますが、大体今までの説明で
りなりましたか。わけ紹介議員にお尋ねしたいのでありま
すか。出願者と地え氏と話し合ひなどの程度持たれたか、
それのう今う課長の解答説明の中に六月三十日解
答の中に権概用水の条件をつけたといううともありま
うか。紹介議員に即説明願ひたいと思ひます。

三番（飯田義男君）次の問題でございますか出願者と地元の民の話し合は私の記憶で一回その時は市長も同道で始は公民館でされることであつたのですか私はその時公民館に行方のですか公民館には居なかつたのであります。

その晩は一杯飲みなつち松岡でやつたそうでありまして后で聞いたことでもありますかその席上で話し合によつてといふことを云ふたそうでありますかその人は全然土地を持つて居らない地主でない人が賛成意見を出してゐるわけでは土地に關係のない人であります。

三番（松本藤太郎君）砂鉄がかに国家的に又産業の面から云つても必要だといふことは誰でも知るのでありますか地元の民の三百七名という反対署名がありこれだけの人が反対したら恐らく全員じゃないかと思われうでありますかましてお願した人の和田所の筆子金部氏で

あります、どの程度の経営状態に知りませんが、それ
にしても地元民がそれだけ反対しております。市当局
としても三回の内このように反対意見表示を市長が
県中央に出て困るというところで一本釘を刺して来た上
り、このことでもありますので我々議会としてもこの陳情を
しても採択しないであらう、このように考えるのであります。
三番（山本昇君）光程の負向の中で一寸お聞きたいと思ひます。飯
田議員の発言、南三原地区許可される時条件があったとさう
です。その後条件が実現されなかったというところであり
ますか。その条件について分りません。どう御説明願ひたいと
思ひます。

商工水産課長（吉田耕一君）条件の問題でございますが、さう
くこの陳情書の中にもござります。試験採掘の場合
さうく被害があるという場合、只今の陳情書で御説明

申上げるならば身七で被害のあるのういけないんだと
莫てございませうか然らば国等てどうした被害を防ぐと
かよ来るかどうか国あるは果におや農作物の被害を二
つをソク檢討されるわけです例えは水の関係困
るの水はこういふふうにしてやる又補償をしてやるということ
条件になりますわけであります。

三番（飯田義男君）県の非常に奨励しているところとてすの経
済部の奨励して農林部は反対している、こういう状況であります
て耕地の痛むとは折角三千万近い経費をやっても耕地を守
ていゝることも無駄になります。

三番（山本昇君）この陳情書の内容につきましては非常に細かく
反対の実情が書かれてあります、これではなるほど困るな
うというところもわかります、又今までの経過を聞きますとこ
れに賛意を表すものであります、私は先程の昭和三十七年

当時南三原村自体の緊急村会を南三原に反対したにもかゝり、
わが村そのお頼みに対して許可には否、そこで私は議会の権威
を尊重するといふ線におきまして、これには議会の通格に把握
しなすほど、これはいけなう、だといふ結論を出す為には、この
問題につきましては特別委員会を作り、この委員会により
深く掘下げたうと思ふます。

三六番（嶋田繁太郎）兄、今三番議員の調査の爲に委員会設置
のお話がありました。私にはその必要はないと思ふます。

とは、かく一昨午、六個村の合併により、生簀部市という政
策が、幾人でも来たのであります。か生簀部地域を育成するといふ
ことは、強ていふべきです。たゞ、ゆけであります。かそれら、み
つゝ、たゞも苦心、惨憺と作られたものを、又その苦しみを含め
させることになり、ます。尚、公害も精しく書き、あります
し、地え、民も知っております。や、そし、まゝ、は、男となれ、山と

なれといふことも地え氏が一番良く知っております。特にその調査といふことは避けられて、数百人の農民の非難を達成してやろ費したいと思つます。従つて委員会への調査は不賛成します。速かに採決していただきたいと思つます。

三番(黒川佐太郎君) 三番議員にお尋ねいたします。特別委員会はいかういふ事項をどう調査するかお尋ねします。

三番(山本昇君) 先程来のらう。――反対の説明に基きしては、良のかります。が果して聞いただけで、県等に対する場合は何かと出てくると思ふます。それ等を考へて場所であるとか、實際の被害の問題をも、疎く振舞つて把握して、本当にどうなつては、議会を上げて、反対をいふと思つております。

三番(黒川佐太郎君) その被害の問題ですが、被害は地え氏が最も良く知るのであります。父祖代々の気持である。この陳情書を信じて然るべきと思ふます。被害如何といふことを、化学的に調

査することとは不可能であります。一地区を實驗と決論が出る
 わけではないのであります。句論公署にして然り一部分の
 申拓地の砂鉄を取るもそう大したことはないと思ふす。
 一米の重さのもものはその二十三倍に影響するのと同じであります。
 それを二角をやらすもそれをもその実害なくと断言出来
 ないぞう考えればこの研究たるや不可能であり砂鉄を取
 つてなければ分らないのであります。議會は調査出来ない
 と思ふす。私も県にいます。地え民の反対がある以上
 当分やりませんという確切たる解答を得て来たのであります。
 尚その時に山奥はもうたうとうと語つてありす。た確徹
 の関係でそれは尚困ると語いたのであります。神戸はなぜ
 ニモ作をやらないかというかと灌漑用水のない為に冬の同乾燥
 させれば田植が出来ないという事で納得したようなわけ
 であります。これは調査することは至難なことで今更取上

げて調査することは向合ひないのであります。神三農民の苦境を疏う爲に是非即採託願いたいと思ひます。

二八番(鳩貫社作君)皆様のうろく意見を聞きましてよく分つて来たようは気分が好みます。このうろく我々は議会のこの請願書を出された時これを始末してゆかなければならぬのであります。ところが始末する段取りになると議会の権限とかうろくいうものに照つて処理されなければならぬのであります。それで請願書を出して議会で採託して貰えばいいか更に何か求めようのか予め知つて置きたと思ひます。

二八番(小沢太助君)只今二八番議会の採託して貰ふの発言されたことに自分もやゝ同感であります。それは大体の理由はこの陳情書でよく分つております。結局認可になるかならなうか。通産大省のうろく判を押して決定するのうろく、かくつておるのではありませんか。幸にして地え代表の通産大臣であります。

の問題にまゝで送られて又意見も聞ける苦であります。
従つてこの陳情書に對しまして市及び市議會の反對の意見を
一本にまとめることが目的であり私は本陳情書の反對の意見を
取りつた方がよいと考えます。

二八番(嶋母貞杜作君)付加えるなり神々の人達もたくさん居る
れる従つて議會のなで單に普通の市議會で行なわれよう
に始末するといふことでは満足しない感情を抱くだろうと思ひ
います。そこで何等言及しておりませんか。予めさういふ
ふうにして置いていふまいといふことを聞かされた方が陳情書
を始末するに都合がよいと思ひからであります。

三二番(飯田義男君)地元としては本陳情書を對しましてはやはり
議會の全面的に協力願ひたい。反對に積極的の反對意志の表示を
して貰ひたいといふことでもあります。尚先程の通産大臣云々
でございしますか。地元の水田さんに送ります。本問題を地元

と反対ならば絶対許可ないという言質をもうありますので
即参考まで申し上げます。

二番(鈴木市蔵君)この陳情書に對しまして今まで検討して頂く
令っております。すなわちの許可を下さるという問題ですが三番議員
の議では他町村に於て金部の議員が反対決議したものがこれ
翻う許可になったということも聞きました。がりの場合という
点も研究されてあるかどうか。今一つ許可になる場合、市で
副申をつけると思いますが、その場合、市の強断をやさしいものか、一
すお尋ねいたします。

六番(鈴木孝君)先程の伺ったした南三原は地元の議會を
対したにもかゝらず許可されたという事は、当局でそれ
に反した副申を附して許可されなかったという事は、
中々たになつたか、その研究されたかどうか、その点大に
つきか伺ひます。

商工水産課長若田耕一君に答へ致します。

最初の南三原の議会の反対決議してその旨に許可が来た
とどう英にどう細かい調査は致してございせん、しるし南三原
の議會が扶能は地元の反対もアとして議會もやつたので
あります。が結局許可にならず来たに従うてその前例を
これをも簡單に反対ということではなく正し理由としようものを
つて反対なくちやならぬいと考へております。従つて私
達も反対陳情をするよりもむしろ本當にいけないとするな
らば先程申し上げました豐後業法十五条の禁止区域にもろ
ゆくと考へる方もありますので要內的立場にある國県の
意見を現在南に研究してあります。

さう番へ鈴木市藏君「この陳情書はいろいろ受けた陳情書で
あり重大問題と思ひます。議會の絶対反対をと許可になる
これは議會の顔に泥をぬられることになるんです。おとこま

でも館山市として反対するかの点についてお伺いします。
商工産課長(吉田耕二君)御質問の中で落した問題ですが市の許可
する云々の問題ですが市は公願の受理はしない従って許可も
しないわけでありまう。国の方におされまうので国は府県
公事に意見も出し県は市町村に意見をも求めるのであり
ます従って市長は求められれば入ふの問題に對して、
悪いという点でるで解答するに過ぎません。その結果さう
いう検討して許可あるいは不許可になるのをあります。

議長(石井潔君)休憩いたします。 午後三時五十分

再 開 午後四時十分

三番(飯田義男君)先程の私の発言に對しまして一部足りぬ所
かございまして補足いたします。

三八番議員の質問の本問題に對しましては議會でお
取上げ下さいまして地えとしましては強硬に法第十五条の禁

止区域にもそゆくまで反対して貰ったかと考えております。
市長(田村利男君)市としては一は再三申し上げる通り
反対陳情を致してありますので今後とも尚強けまして
県並みに通産省に参ります。地方の直接の利害関係
者の意向を嚴重に申込れ尚通産省の意見も聞て来
ています。なわけでございます。

六番(嶋貫壮作君)市長は禁止区域の接込にふつ言及
しなかつたのであり、ますかの言にうて言及して欲しい
と思います。

市長(田村利男君)禁止区域という問題は非常におず
かしい問題と思います。私自身勉強してありませんがこれ
を決定する場合直ちに設定するの、よく合っております
ので研究したいの、と思っております。

三六番(嶋田繁君)調査権限とあります。か調査研究は政

府がやるべきものと思ひますか。この地元民が困る被害の現象をみてこれに長引かせることは議會として取るべきことではないと思ひます。熱心に力強くお願いしてそこに調査研究にかけるべきものだと思ひます。従つてこの陳情書はこの地元民をどうするの非願を受入れ市長が全力を上げてやることに取るべき道と思ひます。これを採託してやるつもりです。と思います。

議長（石井繁君）本陳情書に關しましては大體論議は盡されたように存じます。従つて本陳情書を採託することに即異議ございませんか。

異議なしの聲

議長（石井繁君）即異議ないと認めます。よろ採託された陳情書は市長の手元に送付いたしますのでよろしく即承知願ひたいと思ひます。

二番（嶋貴壮作君）この陳情書を送付する場合決議書を

添えて貰いたいと思います。

議長（石井潔君）それでは尚お諮りいたします。

又今の二十八番議員の御意見でございますが市会の議決書
あるいは市会の意見書を作製したさなければならぬと思
います。この処置はいかゞ致しますか。

二五番（石井平次君）鳩山議員の議決書をひかいます。これは
採決する以上はやはり議決文をこしらえてはつきり反
対することが妥当と思ひます。

議長（石井潔君）尚お諮りいたします。

議決書は発言議員より御提出いただくものと道と思ひますが
その作製文案に拘りましては委員を作してゐる。いつその委員
により文案を作製する。という法を取るのがかと思ひ
ます。各位の御意見を伺ひます。

二五番（石井潔君）先ず定員を定めて議長の名を付してゐる。

たいと考えます。

議長(石井潔君) 定員を決めて貰いたいと思ひますが幾人にいたしまし
ようか。

五名と呼ぶ者あり

議長(石井潔君) 五名の声がありますか五名で御異議ありませんか。
異議なしの声

議長(石井潔君) 御異議ないと認めます。

又この決議書でございますか提案先をいすれにいたしますか。
例えは県あるは通産省とか提案先をこの際皆様の御意見
を伺う置きたいと思ひます。

三番(嶋母貞壮作君) 提案先まではどうかと申ひます。市長
に陳情にお本になる時に持参して下されければ結構と考え
ております。

議長(石井潔君) 分りました。

それでは五名の委員は議長一任の事でありまして、それより議
事をお願いします。

異議なし

議長石井潔君 それでは、委員を議長から申し上げます。

嶋貫議員、飯田議員、石井平次議員、嶋田議

員、山本議員、以上五名の各に起草をお願いいたします。

議長石井潔君 暫く休憩いたします。

午後四時三十五分

再開いたします。

午後四時四十四分

議長石井潔君 起草委員の代表嶋貫議員の発言を

求めます。

二八番嶋貫壮作君 起草委員長を押し付けられましたので、

起草文を読上げます。

意見書

館山市議会は本市神三ノ地区砂鉄採

振にうすは種々、公曾あると認めえに反対するものである。

右意見書を提出する。昭和三十一年一月二十一日、龍山一市
議会 以上であります。

議長（石井潔君）以上で、今、島岡議員より発表された意見
書に対し、即異議ありませんか。

異議 ない（のり）

議長（石井潔君）それでは、即異議ないと認めます。

それで、その意見書は直ちに市長に送付いたします。

就その日程オミ、品時出納検査立会議員の互選を上程
程いたしますか。お答えに配布の申合せ通りにより
決定するに、即異議ありませんか。

異議 ない（のり）

議長（石井潔君）即異議ないと認めますよう、議長、副議
長、監査委員、それに今まで立会議員に付される方

以外の方でこれを抽せんにより行います。抽せん棒の先端に黒く塗るものを引取る方が当せん者となります。

(抽せん)

議長(石井潔君) 只今の抽せんの結果を申し上げます。

五番議員、秋生田七郎君、七番議員、山口房雄君

二六番議員、嶋貫杜作君、三四番議員、黒川佐太郎君

以上の通り昭和三十三年三月行われる臨時出納検査
並会の議員に決定されます。

就その程才四議案才一号を上程いたします。

書記 朗読

議案才一号 起債議決の変更について

議長(石井潔君) 説明省略承認するに即異議ありませんか。

異議なしの声

議長(石井潔君) 即異議ないと認めます。よって本案は決定

いたしますし、

続今日程中五議案ヲ二号を上程いたします

書 記 朗 読

議案ヲ二号 固定資産評価、審査委員会委員の補充

選 任 に つ い て

市長(田村利男君)固定資産評価委員の大西氏が教育委員会長に
なりまゐるのを后直には補充しなければならぬかとの
であります。市長の意見を使、君所が在と云います。在
の評価の良くなる、由農村地区から入入れたい意向
を取入れまゐる。そのようなる人を選任したいと思つて
おります。

異 議 有 無 の 事

議長(石井素君)即異議ないと認めます。よろしく本案は
承認されます。

以上を以てして表示される議案を議了いたしました。
これを以て南会いたします。長時間御苦勞さまでと。

時に 午後 五時 五十三分

右会議の次を録しここに署名する。

昭和三十一年一月二十日

館山市議會議長

同 議員

同

